

平成30年度東住吉区区政会議

第1回子育て教育部会

1 開催日時 平成30年7月23日（月）午後7時02分～午後9時05分

2 開催場所 東住吉区役所 3階 302・303会議室

3 出席者の氏名

（委員）

榑 徳子、筒井 由美子、中津 功一朗、平田 睦、藤本 佳孝、松田 安弘、
翠 紀雄、森川 裕子

（市会議員）

田辺 信広、高見 亮、加藤 仁子

（東住吉区役所）

上田区長、山根副区長、齋藤政策推進課長、中原総務課長、
伊藤次世代育成担当課長、柴田子育て支援担当課長、玉木保健主幹、
金森生活支援担当課長

4 議題

（1）開会

（2）第1回区政会議で提案されたテーマ及び本日の議論について

（3）今回の部会で検討する項目及び関連する事業説明について

（4）子育て教育部会からの提案事項について

（5）その他（今後の予定など）

（6）閉会

○齋藤政策推進課長

皆さん、こんばんは。私は東住吉区役所政策推進課長の齋藤でございます。

ただいまより、平成30年度東住吉区区政会議の第1回子育て教育部会を開会させていただきます。

先日、区政会議の本会議の場で、今年度の部会長の選出を行わせていただきまして、藤本佳孝委員に部会長をお願いするということで決定したところでございます。

それでは、進行につきまして、藤本部会長をお願いしたいと思います。よろしくお願

します。

○藤本佳孝部会長

こんばんは。暑い中、ありがとうございます。

それでは、まず欠席者の確認ですけれども、特に欠席のご連絡については聞いていません。少し遅れている方もいらっしゃると思いますが、進めさせていただきたいと思います。

東住吉区区政会議開催要綱第6条第3項、区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第7条第5項により、委員の定数の2分の1以上の出席がありますので、有効に開催されているということを報告させていただきます。

また、本日は、大阪市議員の田辺議員にお越しいただいております。

○田辺議員

こんばんは。お願いします。

○藤本佳孝部会長

よろしくお願ひいたします。

では、改めまして、部会長に選出いただきました藤本です。本日は、よろしくお願ひいたします。

今日から、いよいよ子育て教育部会が正式に始まるということですが、10月中に行われる予定の区政会議本会議での報告に向けて、本日を含めて2回部会を開催するということになっております。活発な意見交換を行いたいと考えておりますので、皆様の御協力をよろしくお願ひいたします。

では、議事に入る前に、会議の注意事項について幾つかお話しさせていただきます。

会議は発言者の氏名と発言内容が議事録に残り公表されることになっておりますので御承知ください。会議のルールとして、委員の皆さんが発言される際は、挙手をいただいて、私から指名させていただきますので、指名されましたら、お名前を言っていただいて御意見をお願いいたします。委員以外の方は、部会長である私の指名がある場合を除いて、発言しないでください。

それから、会議中の携帯電話については、お切りいただくか、マナーモードにさせていただいて、進行の妨げにならないようによろしくお願ひいたします。傍聴者の方も、写真撮影や録画・録音などは、区長の許可なくしないということになっておりますので、委員の皆様も会議中はお控えいただきますようによろしくお願ひいたします。

また、市議員の方には、会議の最後に、今日の議題について助言をいただくこととさ

せていただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

○齋藤政策推進課長

それでは、次第の裏面をご覧くださいと思います。まず委員名簿と座席表です。座席表については、本日実施予定の意見交換用の座席表も最後に付けております。それと資料1としまして、第1回子育て教育部会のレジュメです。それと資料2としまして、子育て教育部会に関連する事業です。それと参考資料としまして、東住吉区の平成30年度運営方針の子育て教育部会に関連するものを抜粋したものです。あと、本日学校案内の冊子をお席にお配りさせていただいておりますのと、アンケート調査もおいております。アンケート調査は、終わってからご説明させていただきますので、あるかどうかをご確認いただけたらと思います。

配付資料は以上ですけれども、お手元にない方や落丁等ある方いらっしゃいましたら、おっしゃっていただけたらと思いますが、よろしいでしょうか。

以上でございます。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございます。それでは、議題2へ移ってまいりたいと思います。

第1回区政会議で提案されたテーマ及び本日の議論について私から説明をさせていただきます。前回の本会議を踏まえて、どのようにテーマを決定したかを御説明させていただきます。区役所側から関連事業の説明をお聞きした後、議論に入りたいと思います。

では、テーマについてですが、「第1回子育て教育部会」という表題がついている資料1をご覧ください。

まず、先日の区政会議のときに、東住吉区のビジョンの確認・共有ということをしていただきました。「子どもが輝き、みんなが幸せなまち」ということで、これは一体どういうことなのだろうということを確認いたしました。子どもが輝けば、みんなが幸せになるのか。それとも、子どもが輝くこととみんなが幸せになることは別々なのかという話をしまして、子どもが輝く取り組みに、大人がかかわることでみんなが幸せになるんじゃないかということでもとまっております。子育ては、親だけではなく、社会全体がかかわることが大事であるというところです。子育て教育部会ということで、社会教育、地域教育みたいなイメージが私の中にはあるのですけれども、家庭だけではなくて、地域全体で子どもを育てていこうというイメージです。

それから、「子ども」の定義ですけれども、確認したところ、法令的には18歳未満の子どもということだそうです。ですので、この会議の中では、18歳未満の子を育てるイメージと共有しておきたいと思います。どうしても、子育てというと、何か幼児などのイメージでとどまってしまうのですが、18歳未満というところでくくっておきたいと思います。

次のページめくっていただいて、第1回区政会議、先日（6月に）行われた会議で提案されたテーマとして、a. 『地域コミュニティと学校の連携をどうつくっていくか』、b. 『子育て応援ナビのデザインについて』、それからc. 『東住吉区の強み、もしくは強みとなり得るもの』、それからd. 『少年期（小中学生）の自立を促す取り組み』というところが話し合われました。

それを踏まえまして、事務局と課題を整理させていただきました。地域と学校のかかわり合いについて、連携体制が十分ではないというところ。「英活」や「子ども食堂」での施設利用が困難。衛生面や事故対応、教職員の対応が難しいなどです。

2つ目です。「教育」に関して「住み続けたいと思う」要素は何だろうというところ。親や大人たちが通わせたいと思う学校にはどのような要素があるのだろうかということ。学力レベルが高い学校を望んでいるのかとか、クラブ活動が活発な学校がいいと思っているのかとか、実際に子どもを持つ親がどのような学校を望んでいる、教育を望んでいるのかというところをもっと具体的に知ったほうがいいんじゃないのかという話でした。それから、現状、東住吉区の学校ごとの特徴や独自の取り組みはどうなっているのか。学力やクラブ活動はどのようになっているのかというところ。特に中学校、小学校は、学校選択制になっているのですが、実際何を理由に選択されているのだろうかというところ。現状、皆さんが感じている部分というのは、近いからとか、その程度のレベルなのか。特に東住吉区内の中学校でいうと、その学校へ通いたいというイメージは持っていないのかなというのがあるので、せっかく選択制になっていても、うまくそれを活用できていないのかなというところですね。

それから3つ目、少年期に「他人」や「社会」の役に立ちたいとを感じるような社会性を身につけることが重要じゃないかと。その思考が今後の地域貢献へとつながるのではないかと。できるだけ地域行事などに少年期のときから積極的にかかわるような取り組みがあれば、もっともっと住み続けたいという子どもも増えていくのじゃないかなと感じております。

それから、部会長検討、『地域コミュニティと学校の連携をどうつくっていくか』をベースに、今日までの流れということです。モデルケースとなる学校を選定し、地域との連携体制を構築する方法を議論していくと。東住吉区、もしくはその地域、学校の強みや弱みを検証しながら住み続けたいと思う町をみざすということです。

まずは、学校に何かをしてほしいと要望を出すよりも、学校の課題も踏まえながら、地域の区民として、それから我々で言うと、地域で働く人間、企業を経営する人間として、学校との連携について自分たちが何ができるのかというところを中心に考えていけたらなと感じております。そのために、まずはどこかの中学校、モデル中学校を選んで何ができるだろうというところを具体的に掘り下げていけたらなと思っております。

今後の流れとして、本日の議論、提案内容の決定、仮決定でもいいかと思っております。情報収集の必要な項目の選定。それから、9月ごろに第2回子育て教育部会を行って、10月に第2回区政会議本会議で提案という流れになります。

そうしましたら、区役所から資料2について御説明いただきたいと思っております。

○齋藤政策推進課長

ありがとうございます。政策推進課長の齋藤でございます。

資料2をご覧ください。今回の課題でいただいております地域コミュニティと学校の連携をどうつくっていくかをベースにということでございましたが、関連する事業について、それぞれの課から御説明をさせていただきたいと思っております。

私から、政策推進課が所管をしております事業で、関連する2つの事業を挙げております。左側に「子育て応援ナビ」、右が「ゆめ応援プロジェクト」になります。「子育て応援ナビ」については、今の情報をお伝えし、区民の皆さんに関心を持っていただくかという視点と、「ゆめ応援プロジェクト」については、事業の中でこういった形で地域資源とつながりをつくっているのかというところを中心に御説明できたらと思っております。

「子育て応援ナビ」ですけれども、こちらは、キーワードや年齢別に分類した子育て情報をわかりやすくお伝えするサイトになっておりまして、口頭の説明になりますけれども、イベント・お出かけ情報でしたり、妊娠・出産、病気・けが、成長や子育ての悩み、子どもを預ける際のことであったり、各種手当・給付金貸し出し、発達が気になる子どものサポート、あと転入手続などに分類したページを設けております。それと、年齢別ではプレママから0歳というのと、1歳から2歳、3歳から6歳、小学生、中学生という形で子どもの年齢別に分類したページがあります。あと、区民の皆さんとの協働の視点での作成とい

うのをこのサイトで重要視していきまして、わくわくボックスというページがあるのですが、
ども、大阪城南女子短期大学の先生方でしたり、日本写真映像専門学校の写真であったり、
あと、なでしこ報道局という区広報紙のボランティア記者の皆さんのサポートを受けまし
て、例えば子育てにうれしいお店の情報でしたり、お子さんの写真でしたり、あと手づく
りおもちゃであったり、そういった情報も子育て層の皆さんに向けて、掲載しているところ
です。

こちらを立ち上げた経過について少し御説明させていただきますと、28年の4月にこ
のサイトを立ち上げたのですが、その前年に区政会議メンバーの皆様方から提案を受けま
して、東住吉のエリア魅力を高めていくために、デザインの視点でアドバイスいただけな
いかということで、東住吉タウンデザインアドバイザー会議を27年の4月に創設しまし
て、当時のメンバーで町歩きでしたり、意見交換会、あと子育て層へのヒアリングに取り
組んでまいりまして、コミュニケーションツールの一つとして、区民の皆さんが子育てに
ついて調べたいときの入り口をつくろうということで取り組んでまいったものでございま
す。その際に中津先生にも非常に御協力いただきありがとうございました。

29年度末にはサイトの改修も実施しました。あと区内の保育園・幼稚園にも協力をい
ただきまして、周知啓発チラシを約2,300世帯に配布させていただきました。

また、先日の「子育てOHえんフェスタ」で撮影した写真データを写真館へアップし
たりすることで、LINEの周知をしていたのですが、現在登録者が930名になっ
ております。

このサイトについて御意見を今日場でいただくというよりは、また区政会委員の皆様
方から御意見をいただく機会も頂戴できたらなと考えておりますので、よろしくお願
いします。

右側の「ゆめ応援プロジェクト」の関係でございすけども、こちらに記載しています
ように、「小学生英語交流事業」という事業と「中学生海外派遣事業」という2つで成り
立っております、上の「小学生英語交流事業」ですけども、小学五、六年生24名が夏
休みに3泊4日で英語づけのイングリッシュサマーキャンプを宇多野ユースホステルで行
いまして、最終日には、京都の伏見稲荷大社で、海外から来た外国人の方にキッズリポー
ターとしてインタビューをしたり、東住吉のPRにも取り組んでいくという事業です。秋
からは、小学三、四年生を対象を変えまして、25名を予定しておりますけども、区内の
各所で英語を学びながら地域資源も知っていただくということで、イングリッシュスタ

ディツアーを3回実施しています。

昨年で言いますと、11月に長居公園で行われた「長居アートステージ」というイベントの日に、自然史博物館でしたり、長居植物園で英語を学びながら回ったところです。12月には、「クリスマス in 駒川商店街」ということで、英語の予習をした上で、お店の方に御協力いただきまして、店員さんに英語でインタビューをしまして、聞いたインタビューをもとに英語でチラシを作成して、プレゼンに取り組む、そしてお店にもチラシを掲示いただくという取り組みをしてまいりました。2月には、「バレンタインコース at 大阪城南女子短期大学」を実施しまして、バレンタインにちなんだ英語レッスン、短期大学の校内に隠されたバレンタインのケーキの材料カードを集めるといったゲームにも取り組み、その内容のプレゼンテーションにも取り組んできたところでございます。

もう一つの「中学生海外派遣事業」ですけれども、今朝、ニュージーランドのハット市に向けて出発したのですが、区内在住の中学生7名がハット市で3週間それぞれ一人ずつホームステイに挑戦するという事業になっております。ハット市では、同世代のバディと一緒に現地の公立中学校に通学したり、上田区長からの親書を携えて、ハット市長への表敬訪問を行ったり、あと地元の特別支援学校でのボランティア、週末はホストファミリーと過ごすといった形で、中学生にとって非常に有意義な機会となっております。なお、現地で和菓子づくりをして披露したいという中学生の意向もありまして、今日も来ていただいています、みどり製菓株式会社の翠社長に御協力いただきまして、和菓子づくりの事前研修も実施しました。現地のクッキングクラスで紹介する予定となっております。ちなみに、「すはまだんご」と「葛餅」を披露する予定となっております。このほか、盆踊りを披露したいという希望も受けておりましたので、地域の女性部の皆様方から盆踊りのレッスンも受けまして、駒川商店街で浴衣の着つけ体験も行ったところでございます。あと、現地のニュージーランドがラグビーの聖地ということもございまして、長居公園のヤンマースタジアムの見学も行いまして、地域にもそういった施設があるのだということも知った上で行ってもらっています。

9月には、この小学生、中学生の発表会を行います。秋以降の小学生事業では、派遣した中学生にもボランティアとしてサポートしてもらおう予定となっております。

あと、今回ニュージーランドへの派遣が6回目ということで、これまでのメンバーのOB会といいますか、交流会も今年の3月末に実施しまして、今後もこうして培ったネットワークを区政に活かしていけたらなと考えているところでございます。

以上が、政策推進課に関連する事業でございます。

続きまして、学校支援に関する取り組みにつきまして、伊藤次世代育成担当課長からご説明いたします。

○伊藤次世代育成担当課長

次世代育成担当課長の伊藤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、私から、教育関連事業ということで、学校支援に関する取り組みについて御説明をさせていただきます。

資料2-2になりますけれども、右上に、大阪市における教育の目標と書いております。大阪市は、教育に関する基本的な方針などを定める大阪市教育振興基本計画、こういったものを策定しております。

この計画において、大阪市の教育目標として、2つの最重要目標を定めております。

まず一つが、子どもが安心して成長できる安全な社会の実現。一言で申しますと、安心・安全。もう一つが、心豊かに力強く生き抜き、未来を切り開くための学力・体力の向上。一言で言いますと、学力・体力の向上。この2つの最重要目標を定めております。

各学校は、市の教育目標でありますこの2つの目標に沿いまして、学校協議会、これは保護者でありますとか、地域の方々、学識経験者の方々などが委員となって構成されている組織で各学校に置かれていますけれども、この学校協議会での意見もいただきながら、「運営に関する計画」、こういったものを策定しまして、学校での取り組みを実施しております。

学校は、運営に関する計画に基づき、学校運営をしておりますが、ここにも取り組みの実施ということで、一例を挙げておりますが、安心・安全ということと、学力・体力と、この2つの目標の達成に向けて、学校の取り組みはいろいろと多様になっております。その中で、教員だけで取り組んでいくということにいろいろと限界が生じているという状況があるのかと思います。一方で、最近話題となっておりますけれども、教員の負担軽減、こういった課題も指摘されている状況にあります。

こういったことから、学校としては、学校の取り組みに対する支援、こういったものを必要としている状況にあるのかと思っております。

次に、右側の下、具体的に今行われております学校支援に関する取り組みについて御説明をさせていただきます。

まず、区のかかわりということで、区におきましては、教育活動サポート事業、こうい

ったものを実施しております。これは、児童・生徒を対象にしたりでありますとか、指導力の向上を目的に、教員の方を対象にしたりでありますとか、こういったことで、講演や講義などを行うため、学校に民間講師の方々を呼んで活用する、そういったことでありますとか、あるいは授業中や校外行事などで、教員を補助するために児童・生徒をサポートするサポーターの配置、そういったことを行っております。そういった学校支援を行っている事業が、教育活動サポート事業になります。

次に、これは中学校だけで行っている事業ですけれども、放課後や夏休み中などに塾などの民間事業者を活用して、基礎学力の向上でありますとか、学習習慣の定着、こういったことに向けて、学校を会場にいたしまして、生徒の学習の場を設ける民間事業者を活用した課外学習、こういう事業も実施しております。

次に、今学校では発達障がいなどのある児童・生徒の学ぶ環境、こういったものも整えていくということが課題になっておりますので、区で、その分野に精通した支援員の方を雇用しまして、支援員が学校訪問する中で、学校を通じて児童・生徒や保護者などに対応するサポートを行っております発達障がいサポート事業、こういったものを行っております。以上が区でかかわっている事業になります。

それから、地域における取り組みになりますけれども、先ほど社会教育という言葉も出ましたが、小学校区には、小学校を地域における市民の生涯学習活動の拠点とする生涯学習ルーム事業があります。こういった事業において、学校支援に取り組む地域連携支援事業というのも行われております。

それから、地域における学校支援となりますと、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てることを目的に、小学校区におきましては「はぐくみネット事業」、それから中学校区におきましては「学校元気アップ地域本部事業」、こういったものが実施されている状況にあります。「はぐくみネット事業」でありますとか、「学校元気アップ事業」では、学校と地域をつなぐ観点で学校教育を支援し、学校のニーズに応じた学校教育活動のサポートが行われている状況にあります。

最後に、学校ではさまざまな外部人材、サポーターの方々を活用しているという状況にあります。教育委員会の事業でありますとか、先ほどのはぐくみネット、学校元気アップ事業なども利用しながら、放課後など学習を見てくれる方でありますとか、あるいは学校にある図書室の運営を手伝ってくださる方、部活動指導のサポートしてくれる方など、さまざまなサポーターの方の支援・協力をいただきながら、学校の取り組みを進めていると、

このような状況にあります。

以上が学校の支援に関する取り組みの説明です。ありがとうございました。

○柴田子育て支援担当課長

では、資料2-3に基づきまして、子育て支援担当で実施しております取り組みについて御報告させていただきます。

ここで御説明させていただきますのは、乳幼児のお子さんとその保護者の皆さんへの取り組みでございます。子どもたちにとって初めて接する社会、またそこでどんな体験をするかというのは、後々までとても大切なことだと思います。そういう中で、東住吉区では子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開を行っておりまして、これはテーマの中の東住吉区の強み、もしくは強みとなり得るものにもかかわってくるかと思えます。

左上に子育て支援連絡会について、簡単に書いておりますが、これは子育て世代、これから子育てを始める人が、子育てをする際に感じる不安等の軽減を図り、地域全体で子育て世代を支える機運をより高めるために、区内の子育て支援の関係機関や団体が連携して立ち上げたネットワークでございます。子育て世代が地域から孤立することがないように、子育て支援にかかわる情報の提供と子育て世代同士、また世代間の交流を行ってきた関係機関等の連携の積み重ねの中から、平成27年度立ち上げられたものでございます。

構成員は、社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会など全区的な組織でありますとか、区内の各保育所、幼稚園、認定こども園、小規模保育施設等の各施設、そして大阪市の子育て支援事業を区内で担っている子ども・子育てプラザでありますとか、地域子育て支援の拠点事業の実施団体等、それから区内14地区の親子サロンの皆さん、また児童文化にかかわる子育てサークルや、あわせて図書館や区役所などを含めまして、現在61団体で構成されております。つまり、子育て支援にかかわる専門性を持った機関や団体のノウハウと、それから地域に根ざし顔の見える関係を大切にした活動を専らされているという、それぞれの特色を備えた機関や団体がつながって構成している集まりでございます。

具体の取り組みとしましては、まず情報提供として、毎月の「子育てOHえん情報誌」というものを編集・発行しております。これは、主に連絡会構成機関等の各行事でありまして、全区的な子育て関連事業のお知らせ、また、季節の子育て関連情報、8月ですと、「夏を元気に過ごしましょう」という熱中症予防であるとか、食中毒の問題でありますとか、そういったテーマを取り上げております。

そして、関係機関の皆さんが、それぞれ分担をして執筆し、それぞれのノウハウをここ

で集めて、編集・発行しているところでございます。

また、配布等につきましても、それぞれの団体で分担して行っております。区内の子育て関係機関や公共施設、また全ての鉄道駅、そして病院です。区内の内科、小児科、また歯医者、そして地域の会館ほか、約200カ所、3,000部を配布しております。

また、早い時期からこういう情報に接してもらうために、1歳6カ月児の健康診査のときにも配布をしておりますし、ほかに連絡会議構成機関等を紹介する冊子を3カ月児健康診査のときに配布し、早い時期から区内の子育て支援の情報を届けているところです。

また、情報発信以外にさまざまな事業を行っております、それが右側に書かせていただいております。「子育てOHえんフェスタ」という行事がございます。これは子育て世代に、交流の機会や子育て情報を提供し、育児不安の解消や子どもの健全な育成を図るということで、ミニステージの取り組み、またさまざまなゲームも楽しみながら、子どもたちと保護者の皆さんに、1日触れ合っていただくという行事であります。平成22年度から開始し、30年度は862名が参加しました。また、「子育てファミリー運動会」というのもありまして、これも主に在宅の乳幼児と保護者の方を対象とする屋内運動会で、平成19年度から実施しております。

というふうに、子育て支援連絡会は平成27年度に発足ということになっておりますけれども、もともとこういった関係機関でのつながりの、「ファミリー運動会」とか、「OHえんフェスタ」というのが多岐に取り組まれており、そういうものをもっと日常的につないでいこうという中から連絡会が発足したところです。

それから、比較的新しい取り組みとしては、「赤ちゃんも一緒」、「ふれあいコンサート」というものを実施し、0歳児とその保護者の方を対象として、プロの音楽家によるコンサート、クラシックの演奏もやっております、意外と小さなお子さんも一生懸命聞いております。そういうことを平成28年度から実施しております。

また、その他子育て世代への支援に必要な活動を実施する中で、直接子どもと保護者を対象とした事業に加えて、この連絡会の構成員の支援者のスキルアップを目指す研修会も毎年実施しております。こういった取り組みを通して、ベーシックなところでまずはつながりをつくり、そして、次の学齢期につなげていくということを進めていっております。

以上でございます。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございます 今日、本会議と同様、意見交換を部会委員同士で行います。

今から25分程度、本会議の区政会議で行われた意見交換と同じように、四、五名で分かれまして、チームとして話し合ってください。その後、チームの代表の方に話し合った内容を発表していただいた後に、委員同士で意見交換をまた再度行っていききたいと思います。

今後、本会議で提案を行うために必要な調査事項やその調査事項についてどのように調査するかなど、話し合ってください。本日の最後には、暫定でも構いませんので、提案内容を決定したいと思います。本日決定した内容が今後の話し合いで修正されることもあるかと思しますので、ぜひ、ぎっくばらんに意見交換していただきたいと思ひます。

なお、今から話し合ってください25分間は、部会を一時休会といたします。議事録もストップします。皆さんの状況を見て、時間を延ばすかもしれませんが、私が再開しますと発言してから部会の一時休会が解けて、再開する形になります。

それでは、今から部会を一時休会といたします。よろしくお願ひいたします。

(休憩 19:40)

(再開 20:07)

○藤本佳孝部会長

それでは、今から部会を再開いたします。これからの発言は、議事録に残りますので御注意ください。

それでは、各チームの代表の方、話し合ってくださいの内容について発表いただけますでしょうか。両チームが発表された後、質問や意見交換タイムを設けますので、ほかのチームが発表している間もどのような質問をしよう、どのような意見を言おうといったことを考えながらお聞きいただければと思ひます。

それでは、お願ひします。

○松田委員

青少年指導員連絡協議会の松田といたします。よろしくお願ひします。

こちらのチームでは、まず資料2を追いかけてみました。子育て応援ナビについて、地域の入り口というのもつくってはどうかということをご提案させていただきました。今の若いお母さんたちは、自分がどこの地域に住んでいるかわかりにくい部分があったりするかもしれないということで、住所検索から入って、ここの地域に住んでいるので、それに関連する事業はここかなとわかるようなサイトになれば入りやすいのかなという意見がありました。

それから、資料2-2に行きまして、地域のかかわりの中で、生涯学習ルームはよく広報紙などで知られているわけですが、はぐくみネット、元気アップというのが、どういう活動をされているのかわからないので、そこを私たちがリサーチさせてもらって、どのような活動をしているのかというのを表にするのか、マップにするのか、そういうわかりやすくした上で、モデルとなる地域を検討する資料としては、どうかなと考えています。

それと、資料2-3に行きまして、子育てOHえんフェスタというのが右上にあるのですが、子育てOHえんフェスタの「OH」というのがローマ字になっているのですが、それ以外の事業では「OHえん」というロゴの使い方をしていないので、できれば全ての取り組みについても、「OHえん」というのを入れてみてはどうかなと。ブランドロゴを統一するという感じです。それで、進めていって、皆さんによくなじんでもらうというのですかね、その「OHえん」というのは東住吉区でやっているんだというのを理解してもらおうような、サイトを見るときでも、そこから入っていけるような感じで若い子育て層のお父さん、お母さんたちを引き込めたらいいのかなという意見がありました。「OH」って何の略だろうという話をしていたのですが、何か意味があるのかなあとかということで、いろいろと話もしていたのですが、それはどうなのかわからなかったです。

資料1の問いとして、地域コミュニティと学校の連携をどう作っていくのかというところで、先ほどのはぐくみ、それから元気アップというのは、地域を巻き込んで、活動されているのですが、それがほかの地域は何をしているかというのが全然見えてこないで、どういう形で取り組みをされているのかというのを調べていかないといけないのかなという話をさせてもらいました。

a、bの2点について、bは先ほどのOHえんフェスタの「OH」というところですが、cとdについてまでは、話が進めていけませんので、以上となります。

何か、補足よろしくをお願いします。

○藤本佳孝部会長

ありがとうございました。

それでは、こちらのチームです。こちらでは、地域コミュニティと学校の連携をどうつくっていくかという、そのベースのところを議論させていただきました。地域として、中学校、小学校とかかわってこられた方のお話を具体的にお聞きしておりました。中学校で言いますと、特に中野中学校というのは、元気アップの取り組みであったりとか、地域と

のコミュニティは、割としっかりとやっているイメージがありますねと。ただ、先ほども出ていましたけど、ほかの学校がどんな取り組みしているかというのが、それぞれ見えないうところはあるようです。非常に地域の方々が、PTAを中心に、非常に協力的に、積極的に取り組んでおられるので、中野中学校は割と長く続いているというイメージのようです。

ただ、その中でも課題としては、かかわってらっしゃる地域の方々が、ずっとかかわっていかなければならないと。次の方にバトンタッチするときに、なかなか次の指導者が出てこないということがあったりとか、あと、例えばいろんな行事に保護者が参加されて、夜飲んで騒いでいたりすると、はた目には、「何遊んどんねん」みたいなのところがあったりとか、もっと言うと、家族間でも理解が得られてないところがあったりすると、やっぱり子どもたちの社会に出ていくことについては、影響があるのじゃないかなと。例えば、お父さんが一生懸命地域活動をやっているけど、お母さんが理解していない家庭では、子どもを連れてそこへ行くということがなかなかできないという状態もあったりとかするので、やはりどんな取り組みをやっているのかということや地域社会にも積極的に広めていかないと、コミュニティとして深まっていくというのは難しいのかなというお話がありました。

あと、学校の先生方とのかかわり方というところも課題としてあるのではないかと。どうしても中学校ぐらいになりますと、校長先生とか幹部クラスの先生方とのかかわりはあっても、一般教員の方々とお話しする機会がなかなか持てないということで、学校によっては、校長先生自身が「私が聞くから一般の教員とは話さないでくれ」みたいなこともあったりとか、また、校長先生がかわってしまうと、その取り組み方が変わってしまうというところもあったりします。地域コミュニティと学校との連携となると、一般の教員の方々にも御理解を深めていかないといけないので、例えば区政会議でこんな話し合いをしているんだとか、地域のボランティアの方々がこんな取り組みをしているんだとかということや、教員の方々にも広く周知していただく取り組みをするべきだろうなというところで、例えば区政会議から挙げた声を、大阪市であったり、大阪市の教育委員会であったりとかに声をもっと届けて、教育委員会経由で先生方に届くような仕組みがあれば、もっとアプローチがしやすいし、コミュニティとしてもまとまっていくのじゃないかなというお話をしておりました。

以上です。

はい。というところで、各チームの御意見をまとめたところですけども、前のホワイ

トボードに書き出していただいておりますが、出てきた御意見に対して、質問であったりとか、御意見であったりとか、または補足で何か伝えたいことがあればお願いしたいのですが。どなたか。

ないですかね。そうしましたら、このまま意見交換に入っていきますか。

では、これらの意見のうちで、どの項目を本会議の提案事項とするか、また調査の項目について、再度全体で20分程度、今度は全体で意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いたします。この20分間についてもまた、部会を一時休会とさせていただき、議事録もストップします。また、先ほどと同じように、私から再開しますと発言してから部会の一時休会が解け、再開する形になります。

それでは、今から部会を一時休会とします。では、このまま自由に意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

(休憩 20 : 18)

(再開 20 : 50)

○藤本佳孝部会長

それでは、部会を再開します。今から、発言が議事録に残りますので、御注意ください。

委員の皆さんからいただいた意見ですけれども、元気アップが中心で、地域と学校のつながりができるのではないかという御意見が、皆さん共通して認識できたのかなと思います。そこでいろんな課題が出てくるだろうというところが見えています。

まずは、地域と学校という、地域の概念をみんなが共有できるのかというところが一つあります。それと、それぞれの学校で取り組んでいることがなかなか見えていないというところがあるのかなと感じております。

次回までに、調べていただきたいこととして、というか、我々もかかわりながら調べていったほうがいいのかと思うのですが、まず一つは、元気アップの取り組みが各校どのようにされているのだろうということです。それを踏まえた上で、モデル校としては、中野中学校が取り組みやすいのではないかというところです。中野中学校の取り組みが割と進んでいるという部分もありますし、これからやろうとしてることもたくさんあったりとか、部会のメンバーとしても、中野中学校区の方が多いということもありますので、モデルとしては取り組みやすいのかなと思います。

あと、地域、町会と学校とか、町会と元気アップなどのかかわり方については、まだ今日の議論の中では、どういうつながりになるのかが見えてこないのです、もう少し皆さんの

御意見いただきながら議論を深めたいなと思いますけれども、いかがでしょうか。

○翠委員

広報活動です。先ほど区役所から紹介していただいた取り組みについて、区役所に用事のない人たちには、こんな取り組みしているということが認識していただけないままになっている。それから、地域は地域で、例えば今の元気アップみたいなことをやっているということも、そこに近い人間はわかっているけども、学校に用事のない人などは、全然知らないわけです。そうすると、ボランティアの募集をするときにも非常に集まりにくい。全く関係のない人だからこそ、手があいているから行きますよ、という人がたくさんいるはずです。区役所の皆さんは、本当によくやっていただいていると思うのです。そういう取り組み、区役所はこれだけやっているということも、住民のみんながわかっていないのは非常に残念なことで。せっかくやっているのなら、わかっている人がたくさんいればいるほど、地域のコミュニティが深まって、ボランティアで手を挙げる人がどんどん増えてくる。それから若い次の世代の子たちが育ってきて、大人になって市を支えてくれるというつながりにどんどんと広まってくると思うのですね。だから、まず今のやっている取り組みをどうやってみんなに知ってもらおうかという広報のやり方というのをみんなで考えていったほうがいいのかなどと思いました。

○藤本佳孝部会長

はい、ありがとうございます。ほかに御意見ございませんでしょうか。ないですか。皆さん、一言ずつでもいただけたら。

○平田委員

平田です。何の調査をするって、そのままになっていたもので、何か調べとくことあるのですか、次までに。

○藤本佳孝部会長

まだ、具体的に決めてはいませんが、まずは先ほどの意見の中では、元気アップの取り組み、各校どんなことを取り組んでいるのだろうというところは、知っておいたほうがいいねというお話が出ておりましたので、こちら、できれば我々もかかわりながら調べていくのがいいのかな。区役所の方々にお任せするだけではなくて、御同行いただいで一緒に何か、意見交換までできればいいのかなと思います。あと、先ほどの話で言うと、白鷺中学校は割とうまく機能しているイメージでお伺いしましたので、どのように地域に発信されていたりとか。今の翠委員のお話にもあったように、広報としてどのように皆さ

んに知っていただいているのだろうとか、その辺の取り組みいろんなについて伺っていてもいいのかなと思います。

○松田委員

松田です。今、元気アップという名前だけが挙がっているので、はぐくみも入れてもらって、はぐくみは小学校区で、中学校区で元気アップ、それと地域がどうかかわっているかというところを調べるのが見えやすい形かなと思います。地域、中学校がカバーをしている校下。それから小学校が大体1つの校下で成り立っているので、はぐくみの活動状況だとか。そういう、地図で見るような形で調べていけたらいいのかなと思います。

○藤本佳孝部会長

はい、ありがとうございます。

○中津委員

中津です。モデルケースというところで、この間、本会議のときにも少し話をさせてもらったのですが、区内のモデルももちろん大切と思うのですが、全国を見ていくと、子育てに強い町ってあると思うのですよね。そういうところをまねしていくというのが、一番早いことやと思うのです。という部分では、そういうモデルケースとするときには、区内の中というのも、もちろん大切やと思うのですが、やっぱりよその県、よその都道府県、東京都は同じように人数も多かたりもしますし、そういうところを見つけていくとかいうのもすごく重要だと思いますので、そういうのをまねしていくのも一つ考えていけばいいかなと思います。

○平田委員

ほか地域を知るといのは、いいなと思いました。ほかの地域のいろんな活動事例を見る中で、じゃあ、東住吉区の強みって何だろうというところを、ほかを知ること自分の弱みなり強みなりがわかると思うので、そこまで調べていけたらいいのかなと思いました。

○藤本佳孝部会長

はい、ありがとうございます。最後に出てきた御意見ですけれども、モデル校をつくっていく上で、全国的なモデルケースを調べてみて、そこに対して東住吉区の強み弱みも検討した上で、東住吉区のモデル校を選んでいって、取り組んでいってはどうかというお話ですね。よろしいでしょうか。

また、ここで出たお話だけではなくて、ほかにもいろんな御意見あると思いますので、またそれは次の機会にでも、お話しいただければなと思います。今日のこのお話し合いだ

けをもって決定ということにはならないと思いますので、ぜひとも、またいろいろと御検討いただいて、次回までに整理していけたらと思います。

調査については、次回までにいろいろと、区役所の方々とお話しながら機会をつくっていきたいと思いますので、もしかすると、御協力願うことも出てくるかとは思いますが、よろしく願いいたします。

本日市会議員の方、来られています、時間が押しておりますので、このまま終わらせていただきたいと思います。

それでは、今後のスケジュールを説明させていただきたいと思います。

齋藤課長、お願いします。

○齋藤政策推進課長

政策推進課長の齋藤でございます。今後のスケジュールについて御説明させていただきます。次回については、9月開催予定ということでございますけれども、次回の部会までに、今、部会長からありましたけど、調査の仕方なども皆さんにまたメールなどでも情報共有しながら、ぜひ皆さんの御参画もいただきながら進めていけたらと思います。それを進めた上で、9月のときには本会議での提案内容を固めていくことになればと思います。ただ、全てについて今年度内にとということではなくて、中には非常に大きい課題もあるかと思っておりますので、まずは実態を知ることが要るのかなと思っておりますので、そのあたりの進め方をまた部会長とも相談しながら、皆さんと共有して進めてまいりたいと思っております。

あと、本日の議事録ですけれども、また事務局で取りまとめいたしまして、後日皆様方に御確認をお願いすることになりますので、よろしく願いしたいと思います。

以上です。

○藤本佳孝部会長

はい、ありがとうございます。

それでは、最後に区長から一言お願いします。

○上田区長

活発な御意見ありがとうございました。先ほど、まとめていただいた意見の中で、いろんな事業を区でもやっている。ところがなかなか周知徹底できていないというのが、以前からの課題でして、区政会議の中で、子育て応援ナビの提案が出され、現実に繋げ発信しているということですが、SNSが使われていない方、なかなか難しいということもあるので、それも一つの課題だと認識しています。ですので、先ほどおっしゃっていただいた

ように、それも一つの課題として、御意見、ご提出を頂戴できれば非常にありがたいなと思います。今、持っている媒体は、広報紙、ツイッター、フェイスブックそのあたりですが、それでも、それで全てうまくいっているかいうと、やっぱりわかりにくいというのが、私もそうですし、担当課ともいつも議論するのですが、それ以外のツールって何があるのかなというのが、非常に難しい課題の一つでもありますので、またさまざまな御意見、ご提案を頂戴したいと思います。

それから、地域と学校との関係ですが、やはり古い町なので、自分達がつくってきた町だという認識をお持ちの方もたくさんいらっしゃいます。そこに新しい事業が出てきたときに、なかなか取り組み難い、以前の取り組みとの整合性をどう図っていくかというのは、一つの課題なのでこういう方法ある、と提案いただければ次のステップにつながっていくと思います。そのあたりも御議論いただければありがたいなと思いますので、よろしくお願ひします。

今日は、遅くまで本当にありがとうございました。

(拍手)

○藤本佳孝部会長

はい、ありがとうございました。

それでは第1回部会を終了させていただきます。

ありがとうございました。

—了—